



# はくれい

白山市立白嶺小学校  
白山市立白嶺中学校  
第5号  
令和5年6月2日

## 体験からの 豊かな気づき 深い学び ①

6月が始まりました。先月実施した小学生春のジオパーク遠足では、地域や保護者のご協力を得て、山の幸を存分に味わうことができました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

山に分け入り、山菜を採り、調理し、みんなでおいしくいただく体験は、白嶺に通う子供たちならでのことです。子供たち一人一人が自然の恵みに感謝し、大きな喜びを味わったことと思います。

振り返りの記述からは、本物を体験した子供たちならでの豊かな気づきや表現がありました。この体験を通じて、いかに深い学びができたか、ご紹介いたします。



### 【どきどき】

「わくわく。」  
4年ぶりの山菜とり遠足。いつもの一里野ではない緑の一里野で山菜とり。

チームに分かれて、いろんな山菜とってきて、知らない山菜も教えてもらいました。食べられない、毒を持っている山菜も教えてもらい、とても勉強になりました。

とった山菜は6年生に調理してもらって、たくさん食べました。とってもおいしかったです。アザミ汁もたくさん飲みました。しあわせだな～と思いました。

タイトルの【どきどき】に「わくわく。」で始まる本文だから、新しい発見を楽しみにしていたことがよりいっそう伝わります。

見て、聞いて、触って、香って、食べてみたどれも、「しあわせだな～」と思わせてくれる実り多い体験となったのですね。

これまでと違う「緑の一里野」という表現にも気づきと感動が伝わります。

### 【わくわく遠足】

「うわあ、すごーい。」

山菜がたくさんあることにおどろいた。とくに多かったのはよもぎとごみだ。私は、わくわくしながらたくさん取った。ふくろの中では山菜祭りのようになっている。みんなでこうふんしながら森を歩いて行った。すると、タラの芽を一つ見つけた。一つしかなかったから、少しがっかりした。でも、見つけられてうれしかった。(中略)

自分で見つけることができる、私もみんなも「あった。」と言って、笑顔でふくろの中に入れた。(中略)来年も又、行きたい。



タイトルの【わくわく遠足】、「ふくろの中では山菜祭りのよう」という表現から、いっぱいとれた山菜に喜び、飛び跳ねた様子やこうふんしながらみんなで森を歩く姿が目に浮かびます。まさに「わくわく遠足」ですね。みんなの笑顔も思い出もふくろいっぱい集まったようです。「又、行きたい」ですね。

### 【わっ、びっくりした】

山菜とり遠足で一番おどろいたのはごみをとろうとしたとき、カエルがいたことです。

次にびっくりしたのは、たらのめが23個もあったことです。(中略)とろうと思ったらチクツとしたのでびっくりしました。

(中略)みんなが作った天ぷらはとてもおいしく、気持ちを込めて「いただきます。」を言って食べました。地域の人にも感謝しました。

目の前のごみに気をとられてカエルに気づかずおどろく様子が目に浮かびます。

たらのめ大収穫にびっくり、チクツとしてまたびっくり。おどろきの連続でしたね。

貴重な体験ができた実感したからこそ「気持ちを込めて」「地域の人にも感謝」できるのですね。



### 【たのしい】

「おもしろいな。」

ぼくは、山菜とり遠足で野うさぎを見ました。その時、ぼくは「おもしろいな。」と思いました。さわってみたら、ふわふわしていて気持ちよかったです。うちでかっているねこ「キティ」と同じでした。(中略)山をのぼっていくのが大へんで、へとへとになりました。はらがペコペコになりました。でも、とれた時はとてもうれしかったです。

(中略)らい年もぜったいしたいと思いました。

さわった手ざわりから、ふわふわした毛が「キティ」と似ていることによく気づきました。気づくとおもしろくなります。頑張ると「へとへと」になり、「はらがペコペコ」になります。頑張ったからこそ、楽しさも、おもしろさも、うれしさも倍増するのですね。来年もぜひやりたいと強く思えたわけです。

### 【またきたいな】

「いたそう。」

私は、山菜とり遠足でたらのめの木を見つけました。見てみると、とげとげだったので「こんなとげとげな木、せかいで一つしかないんじゃない。」と思いました。なんとだんだん歩いて行くと、またとげとげの木を発見しました。「これもたらのめの木ですよ？」と、かつ先生に質問をしました。ですが、なんと！「ちがいます。」といわれました。私は「えー。」となりました。「どうしてですか？名前はなんというんですか！」とびっくりしながら聞いてみました。(中略)

私は、はじめての山さいとり遠足でドキドキしてたけど、ちいきの人たちのやさしさで来年もやりたいなと思いました。

発見がいっぱいあったことがすごくよく伝わってきたよと三山先生もほめてくださっていましたね。「いたそう」な思いをしたのに「またきたいな」というタイトル。最後まで読むと、そのわけがよく分かりました。地域の人たちの優しさは、また来なくなる魔法のようですね。

「せかいでひとつしかないんじゃない」と考えたり、積極的に質問したり、意外な答えにおどろいたり、理由を確かめたりできたのもすばらしいです。たくさんの発見やおどろき、もっと知りたいという気持ちを持ち続けてくださいね。